

# みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



Vol.  
190

東北森林管理局



## 特集

森吉山の樹氷(秋田県) [提供: 東北森林管理局登山同好会]

## 令和2年 東北森林管理局長 年頭挨拶

[東北森林管理局長 小島 孝文]

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

将来を見据えた地域林業の成長産業化と森林環境教育の取組・・・[三陸北部森林管理署]

### ■我が署の名所

平滝自然観察教育林・・・[米代東部森林管理署管内 秋田県大館市]



## 特集

# 令和2年

# 東北森林管理局長 年頭挨拶

東北森林管理局長 小島 孝文



新しい年を迎え、  
謹んでご挨拶を申し  
上げます。

皆様におかれまし  
ては、平素より、東  
北森林管理局の業務運営につきまして格別のご  
理解とご協力を賜っておりますことに對し、厚  
くお礼申し上げます。

昨年は、山形県沖地震や8月の九州北部豪雨、  
度重なる台風により全国各地で多くの自然災害  
が発生し、東北地方でも台風19号により宮城  
県、岩手県の沿岸地域を中心に大きな被害が発  
生しました。お亡くなりになられた方々のご冥  
福をお祈りするとともに、被災者の皆様には心  
よりお見舞い申し上げます。当局としましては、  
宮城県からの要請を踏まえて林道施設災害技術  
チームを編成し、災害調査の支援を行いました  
が、今後も国有林内の災害復旧はもとより、各

県と緊密に連携し民有林も含め自然災害に対す  
る山地防災力の強化に向け、災害に強い森林づ  
くりを進め、緑の国土強靱化に一層取り組んで  
参ります。

現在、戦後造成した人工林が本格的な利用期  
を迎えており、森林資源の循環サイクルの構築  
と林業の低コスト化を推進し、林業の成長産業  
化を推進することが大きな課題となっており、  
特に基盤施設である林道等の路網整備について  
は、民有林とも連携しながら計画的に取り組ん  
でいく考えです。

こうした中、森林経営管理法に基づく新たな  
森林管理制度が昨年4月にスタートし、9月に  
は森林環境譲与税の交付が始まりました。更に、  
昨年6月には新たな森林管理制度の円滑な推進  
のため、意欲と能力のある林業経営者の育成、  
或いは地域における川上の林業、川中・川下の  
木材産業の連携強化がより進むよう、国有林材  
を一定期間、安定的に伐採できる仕組み、「樹木  
採取権制度」を創設することし関係法律の改

正が行われたところであり、本年4月の運用に  
向けた準備を進めているところであります。当  
局としても、これらの制度の円滑な導入が進む  
ように、国有林の知識、技術、経験等を活かし  
て積極的に各県、関係業界とも連携して東北地  
方の林業の成長産業化を推進していく考えです。

また、今年は東京オリンピック・パラリンピッ  
クが開催され、外国から多くの観光客が訪日し  
東北にも足を伸ばす方も多いと思いますが、国  
内外の皆さんに国有林の素晴らしい自然景観や  
森林浴を楽しんで頂きたいと考えています。

今後とも、地域に根ざした組織として、これ  
まで以上に国民の財産である国有林の管理経営  
を充実させ、地域に貢献できる取り組みを進め  
て参りますので、皆様のご理解とご協力をお願  
いいたします。

最後に、本年が皆様一人一人にとって、更り  
多き素晴らしい一年となりますことをご祈念申  
し上げ、新年に当たってのご挨拶とさせていただきます。

# 特集



## 今年度の活動を振り返って

### 朝日庄内森林生態系保全センター

当センターは、朝日山地森林生態系保護地域の保全管理を中心に、森林環境教育、庄内海岸林等の森林整備活動支援等を行っています。保全管理や森林環境教育に当たっては、地域の関係団体（自治体、自然保護団体、山岳会、溪流釣り協議会、内水面漁協、地域住民等）と協議会を開催し、意見交換をしながら順応的な管理となるよう取り組んでいます。

#### 朝日山地森林生態系保護地域の保全

本森林生態系保護地域は山形、新潟両県で約7万haが指定されており、山形県の約4万8千haが当センターの活動域となっています。保全管理に当たっては、管理委員会地域部会の開催、ボランティア巡視員による巡視活動、モニタリング調査（委託調査）を行っています。

#### 朝日山地森林生態系保護地域部会を 開催

地域部会は、有識者、行政、自然保護団体等で構成され、ボランティア巡視活動報告、モニタリング調査結果を審議し、人工

林の天然林への誘導やその他管理に関する事項を報告し、情報共有、意見交換を行います。山形大学農学部菊池准教授を座長に選任し、5月に開催し、保護地域への自転車の乗り入れ、モニタリング調査の留意事項、朝日自然塾のPR等について意見が出されました。

#### ボランティア巡視員の活動

春季（6月）と秋季（11月）に巡視員会議を開催しました。登山者へのマナー啓発、森林生態系の保全管理等に係る事項等広大な朝日山地の管理を行うために巡視員による巡視活動と報告は、なくてはならないものです。

春季は、巡視活動マニュアル、活動報告書の説明や「地域部会」における議論の報告等を行い、安全で効果的な巡視活動となるよう意識と情報の共有を行いました。

秋季は、巡視員の活動報告、合同パトロールの報告、センターの活動報告を行いました。本会議では度々登山道の管理、補修等が話題となりましたが、森林生態系に影響を及ぼす事象についての意見交換、対

策の検討が本旨であり、一義的な登山道の管理等は、別途の会議の場で行うことを確認しました。

#### 朝日山地合同パトロール

昨年度の秋季巡視員会議で登山道の修繕方法、メンテナンス等について意見が出され、7月に合同パトロールとして巡視員で現地確認を行いました。登山道の補修等は



現地素材で流水を規制

巡視活動の本旨ではありませんが、巡視員による共通認識の育成、森林への影響を現地確認しました。古い時期に補修した箇所では破損、土砂の流出等がみられましたが、研究を進めた新しい技術で補修した箇所は効果、耐久性ともに良好な状態にあり、新しい工法による補修が待たれます。

#### ニホンジカの生息確認・情報共有

平成31年2月に巡視中のセンター職員が若い雄生体を発見しました。この個体は当日狩猟されましたが、別個体による食痕を発見

し、継続調査を行いました。従来の発見箇所よりも奥地で積雪3m程度ある箇所でも越冬できる生息条件等を検討しました。発見の情報は山形大学

と山形県に連絡し、報告書や第二種特定鳥獣管理連絡協議会資料に引用され情報共有されました。またオスジカが発する咆哮を録音して個体数を推定するアコースティックモニタリング調査を保護林並びに周辺域で行い、今後分析を行います。



ミズキに嗜好性？

#### スノーモービルの走行規制

月山山麓には、自主規制による「月山特別ルール」に基づき、乗入れ区域等が決められており、隣接する朝日山地森林生態系保護地域への乗入れや樹木の損傷防止等のパトロールを関係団体等と連携して実施しています。今シーズンは、3回実施



カンジキをはいて雪山を踏査

し、内一回は東北地方環境事務所、山形県スノーモービラーの会、山形森林管理署と合同で実施しました。スノーモービラーへのマナー啓発、樹木、枝の損傷や走行ルートの確認を行い、区域外走行等問題となる行為は認められませんでした。

### ○森林病害虫の防除

マツノクロコシハバチは、マツ類を食害し、平成23年に大朝日岳の稜線上でハイマツの被害が確認され、以降監視と防除を継続しています。今年度も被害を確認しましたが、枯死に至らぬ被害状況ではなく、過年度の被害木も生存していました。



過年度に食害された枝

### ○外来植物の駆除

保全利用区域に侵入したオオハシゴソウの駆除作業を7月下旬に計画し、羽黒自然保護官、山形森林管理署と協働して行いました。自然保護官からオオハシゴソウの繁殖特性、駆除の留意点、法規制等について説明をいただき、猛暑の中汗だくで作業を行いました。また試験的に成長前の5月に駆除したところ、成長・繁殖とも良好な抑制結果になったことを報告しました。



根茎の除去が大切です

たところ、成長・繁殖とも良好な抑制結果になったことを報告しました。

### ○人工林から天然生林への誘導

朝日山地森林生態系保護地域には79箇所人工林があり、針広混交林化を図るために必要な作業を行い、将来は天然生林に導くこととなります。



山形大学生が成長・植生調査

### ・試験地の設定・調査

効果的な更新補助作業を検証するため、刈払い等の有無を比較条件に試験地を設定し、林床植生、低層木・中層木の成長調査を行っています。6月に山形大学農学部菊池准教授並びに学生の協力を得て、調査を実施しました。

### ・人工林に対する間伐

森林管理署が広葉樹中小径木、稚樹の発生、成長を促す間伐を実施しますが、当センターも伐採計画の段階から参画しており、伐採方法等の協議・指示を行いました。



庄内署 間伐実施箇所

### ○その他

保護林の区域標識の設置、マナー啓発、登山道のシヨートカット規制・登山者誘導を行っています。

### 森林環境教育の取組

#### ○朝日自然塾

関係団体と連携・協力し、小中学生の親子等を対象に自然や森林の恩恵を体感し自

然とのつきあい方を学ぶ体験活動型森林環境教育を行っています。



助け合って全員大鳥池に到着

・第1回：7月「カットチャバ湿原のトンボ観察&大井沢で一日昆虫博士」公募

・第2回：7月「みんなで歩こうタキタウへの道」あさひ小学校

・第3回：7月「プロが教えるイワナ釣り」公募

・第4回（今後予定3月）「かんじきトレッキング&月山メノウでアクセサリーづくり」公募

今年度は森林学専攻の高校生を対象に保護林で立木調査・森林植生調査を行い、ブナ林・広葉樹林の見方を体験学習しました。



高校生とブナ林で森林調査

朝日自然塾連絡協議会を開催し、関係団体の意見を頂きながら、プログラム等に工夫を重ね、多くの方に参加し満足していただけます。

### ○みどりの保育園

西荒瀬保育園は隣接する「遊々の森」で「みどりの保育園推進事業」を実施しています。当センターでは、きの



クロマツ林の営巣地を観察

この駒打ち（4月）、クロマツ探険隊（5月）、松ぼっくりのツリー作り（12月）を行いました。

### ○あさひ小学校森林活動支援

地元あさひ小学校の森林生態系保護活動として行う森林整備活動を支援しました。



稚樹発生のため枝落とし

事前学習で森林の働きや森林整備の必要性・方法を学んだあと、混交林を進める箇所での人工林を伐倒し枝払いを行いました。

### ○地域イベントに参加

センターの活動や森林・保護林についてPRしています。従来のクラフト工作に加え、森林を五感で感じてもらおうと年輪、クロモジ等抽出液、多様な樹木の葉、鳥の鳴き声、チャボガヤの実等を準備し、来場者に楽しんで貰いました。



森林クイズ&アンケート

当センターの中心業務は保護林の保全管理となりますが、地域の関係団体の協力を得て、多くの人が森林の大切さを感じ、親しみを覚える活動に繋がっていきたく思います。

# 美しい森林づくり

## 将来を見据えた地域林業の成長産業化と 森林環境教育の取組

### 三陸北部森林管理署

当署管内は、北山崎をはじめとする「三陸復興国立公園」や日本百名山の一つでもある早池峰山を中心とした「早池峰国定公園」など豊かな自然の宝庫であると同時に、森林率が9割を超える森林資源が豊富な地域でもあるため、古くから森林の扱いや林業・木材産業が盛んに行われてきました。当署では地域林業等のさらなる発展に向け、試験地の設定や中学生等を対象とした森林環境教育等に取り組んでいますので、一部を紹介いたします。

### 1 地域の林業等発展に向けて、継続的な取り組みをしています

①平成26～29年度にかけて、スギ及びカラマツの「低密度植栽試験地」を設定し、局署連携して継続調査等を行った結果、コンテナ苗を植栽することによる効率性や活着率の向上が確認できていますし、植栽本数を減らしたことに伴う下刈作業の効率化もつながっています。

②平成28年度には、ユリノキ・イチヨウ・ヤマハンノキを植栽する「早生樹を使用した施業モデル試験地」を設定し、令和2年度までの計画で下刈・除伐等の省力化や短伐期施業の確立を目指しています。この試験地では、令和2年度まで継続して生長量等の調査を行うこととしています。

③毎年継続して実施している「採材現地検討会」では、素材

生産業者、森林組合、木材市場、製材業者、集成材工場、合板工場、バイオマス発電事業者等川下から川上までの関係者に加え、岩手県出先機関や管内市町村の林務担当者にも参加を要請し、それぞれの樹種や用途に応じた採材の認識を共有し、地域から安定した品質の原木供給が図られるよう取り組んでいます。また、効率的で安定した生産基盤づくりにつなげるため、森林作業道作設のポイントについても説明し、意識の向上に努めています。



採材現地検討会で認識共有

### 2 将来の地域を担う中学生を対象として、森林環境教育等に取り組んでおり、今年度の実施状況は次のとおりです



樹木調査体験の様子

①9月11日(木)、宮古市立宮古第二中学校1学年の生徒26名を対象として、林業についての理解を深めるため事前学習会を実施しました。また、9月19日(木)には、同生徒を対象に林業の産業体験として、国有林内で樹木の調査体験と高性能林業機械による製品生産の作業現場を見学してもらいました。後日、生徒から「初めての林業体験は楽しかった、林業の大変さがわかり森林の持つ効果を高めたために頑張る姿がカッコ良かったこと、当日の協力事業体にも励みにしてほしいと生徒の感想内容を伝えていきます。

②9月18日(水)、宮古市立新里中学校1学年の生徒7名を対象に産業体験として、国有林内で樹木の調査体験と高性能林業機械による製品生産の作業現場を見学してもらいました。製品生産現場では、生徒から出された「林業が大切に感じるときはどんなときですか、なぜ林業という職業についたのか。」などの質問に答える事業体の方々の言葉を真剣な眼差しで聞き、うなずいていました。

③9月24日(火)、田野畑村立田野畑中学校1学年の生徒24名を対象に林業の作業体験として、国有林内でコンテナ苗による植樹をしてもらいました。植樹は、唐鍬を使用する班とディブルを使用する班に分かれ途中で交換する方法にしましたが、生徒からはディブルを使用した方が絶対楽だし、早いとの感想がありました。植栽後は場所を移した「遊々の森」の現況観察やその上流にある治山施設を見学してもらい、森林の保全についても説明しました。



ディブルを使った植樹体験

引き続き、産業発展に不可欠な人材の育成及び確保に向け、地域の教育機関等とも連携しながら取り組んでいきたいと考えています。



森のおはなし

— column —

# 遺伝子保存林について

国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター

東北育種場 遺伝資源管理課 収集管理係長 井上 晃

## 1. はじめに

遺伝子保存林とは、スギやカラマツなどの育種対象樹種の優良な遺伝子を人工林として保存する方法の一つで、優良な天然生林または人工林を選んで採種源林分とし、その種子から人工造林地を造成します。

優良な天然生林または人工林は、いずれ伐採され利用されていきます。そこで、こうした優良林分が伐採される前に種子を採取し、その後継林分を造成することで、優良林分の遺伝子群を永続的に保存することができます。また、造成された後継林分は、伐期が来たとき、あらかじめ次代の遺伝子保存林を造成するための種子を採取しておけば伐採することもできます。

このように、遺伝子保存林は、生産活動を行いながら優良遺伝子を保存することができる仕組みとなっています。

方法の概要は、昭和39年に林野庁により定められ平成13年に最終改正された「林木の優良遺伝子群の保存について」で定められています。

平成30年度末現在、東北森林管理局管内ではスギ、カラマツ、アカマツ、クロマツ及びヒバの5樹種について、84箇所の遺伝子保存林が設定されています。

## 2. 東北育種場の取組

東北育種場では、場内に2箇所の遺伝子保存林を設定しています(いずれもクローン保存)。

ひとつは、カラマツの北限集団である宮城県刈田郡蔵王町倉石岳国有林及び宮城県白石市白萩山国有林内の馬ノ神岳のカラマツの集団を採種源林分とする遺伝子保存林です(写真-1)。

馬ノ神岳のカラマツの集団は、天然分布の中心(長野県、静岡県北部など)から隔離されていることから、学術的に極めて重要な集団ですが、個体数が減少し、絶滅が危惧されています。

そこで、東北育種場では、東北森林管理局、森林総合研究所東北支所と連携し、馬ノ神岳のカラマツの集団の保全と保護に取り組むとともに、現地での更新が困難な場合に備えて、宮城県刈田郡蔵王町倉石岳国有林に設定された実生苗の植栽地とともに、昭和51年時点で現地で生存していた15個体からつぎ木で増殖したクローンを遺伝子保存林として保存しています。この中には、既に現地では枯死してしまった4個体も含まれています。



写真1：馬ノ神岳のカラマツ

もうひとつは、善光寺平スギです(写真-2)。善光寺平スギの採種源林分は青森県平川市津根川森国有林に位置する90-120年生の人工林でしたが、既に伐採されています。東北育種場では、13個体からつぎ木で増殖したクローンを保存しています。



写真2：善光寺平スギ

両者とも植栽から40年となる来年度には樹高、胸高直径の調査が予定されています。

これら2つの遺伝子保存林はクローン保存であるという点で通常の遺伝子保存林とは異なっていますが、優良な遺伝子群を永続的に保存するという役割には変わりありません。

東北育種場では、今後も、関係機関と密に連携を取りながら、林木の優良な遺伝子群の保全に努めていきたいと考えています。



# ニホンノウサギの生存戦略

藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

ネズミかな？と草むらで何やらゴソゴソ動いている小動物を捕まえてみると…少し耳が長くて尻尾が短くてフワッフワ…やたら可愛い今回の主人公、ニホンノウサギの子供でした①。ノウサギは通常天敵の目から逃れるために夜行性なのですが、この幼い子ウサギはまだ怖いもの知らずで、明るいうちから活動してしまっていたのかもしれない。

ノウサギの一番の特徴といえば、ピンと立った大きな耳でしょう。肉食獣の足音等を察知するために聴覚が発達したもので、かすかな足音も聞き取りまさに“脱兎のごとく”跳躍を繰り返し全力疾走で逃避します②。ペットとして人気の垂れ耳のウサギは人間がアナウサギを品種改良したもので、自然界には存在しません。おそらく物理的に聴力が低下するので、耳が垂れるような進化は有り得なかったのでしょう。

大きな耳を支えるためか、ノウサギの頭は胴体に対してかなり大きく感じられます。あんな機敏にジャンプするのに頭が重くないのか？と頭部の骨格

標本を作ってみると、謎が解けました。頭蓋骨はまるで竹細工の様な繊細な構造で、軽量化が図られているのです。そして③では右下の前歯を抜いて並べて撮影してみましたが、歯根が非常に長い事がわかりました。この一生伸び続ける頑丈な前歯で植物を噛み切って食べるので、ナイフでスパッと切ったような特徴的な食痕が残ります④。

特徴的なのは饅頭型の糞⑤や“Y”に見える足跡⑥も同様です。ノウサギは樹皮を剥いで食べることもあり、一見するとニホンジカの仕業と思いがちですが、積雪期なら足跡を辿れば容易に犯人が特定できます。⑥は左下から奥に進んで立ち止まって樹皮を齧り、時計回りに引き返してきた様子が手に取るように分かります。ノウサギはイヌワシやキツネ等、生態系の頂点の大型肉食鳥獣を直接支える重要な存在です。④～⑥の様なフィールドサインが見つかるかどうか、今一度近所の里山をスノーハイクしてみてはいかがでしょうか。



①子ウサギ



②ウサギの跳躍(6枚を合成)



③頭蓋骨と右下の前歯



④冬芽の食痕



⑤糞



⑥足跡

# 国有林モニターからの便り

## 継続して生かす森づくりを

秋田県 北秋田市 藤嶋 秀美



私が国有林モニターに応募したきっかけは、仕事として携わっている建築士として住宅等の設計業務に関わり、色々な建築現場に立ち会う中、現場で見

る木材が森でどんな状態で生育しているのかあまり目に触れる機会がなかったため、自分の予備知識を増やすつもりで応募しました。

平成30年の活動で2度現地見学会に参加し、一番感動したことは、山で働く方の労働の軽減効率化をはかるために、最新の重機を使った作業を見ることができた事です。自分の想像をはるかに超えた重機と、それを見事に操るスタッフの方々は太陽の光を浴びてキラキラ輝き「山で働く喜び」が伝わって来るようでした。

以前は3Kをイメージする仕事でしたが、重機を見事に操る仕事人のステキな現場風景を特に子供達や若い世代に触れる機会をもっと増やしてほしいと感じました。

モニター活動も2年目となり今度はどんな現場を見学できるのかワクワクしていますが、ここで私からの提案です。モニター活動を終了した方や森の活動に参加してみたい方を募って「山の番人ボランティア」のような継続して出来る活動や場があるといいなと思います。スマホのアプリで気軽に参加できて、小さな活動（たとえば車をなるべく使わず歩いた歩数で地球環境を守る）からイベント活動に参加したらスタンプやポイントがもらえて花の種や苗木と交換出来たり、薪ストーブを使用している方には薪と交換できたりと楽しく参加できる仕組みづくりがあったらいいなと思います。

一つのモニター活動から継続的に森とつながる活動で、人と森と触れ合える場

があれば相乗効果でいろんな方が興味を持つてくれるのではないかと思います。色々な業界で人出不足が叫ばれる中、異業種の方が多面的な活動をする事でどんな化学反応が起きるか楽しみです。人と人が触れ合える森づくりをこれからも応援したいと思います。

### 新任者略歴紹介 12月1日付け

#### 盛岡森林管理署長



みやざわ かずまさ  
**宮沢 一正**  
(東京都)

平成 4.4 林野庁研究普及課  
平成 26.4 林野庁経営課課長補佐  
(総括)  
平成 28.4 林野庁整備課森林資源循環  
事業推進官  
平成 30.1 森林総合研究所研究管理科長

#### 津軽森林管理署長



むらかみ たくや  
**村上 卓也**  
(東京都)

平成 5.4 林野庁研究普及課  
平成 29.4 林野庁計画課入札契約技術  
企画官  
平成 29.8 農村振興局設計課入札契  
約技術企画官  
令和 元.10 林野庁業務課付

#### 森林整備部長



まじま しげみち  
**間島 重道**  
(兵庫県)

平成 5.4 林野庁経営企画課  
平成 25.9 中部森林管理局東濃森林  
管理署長  
平成 27.10 林野庁林政課広報官  
平成 29.4 四国森林管理局愛媛森林  
管理署長



# 森林官からの手紙

## 地域の伝統とのコラボ

庄内森林管理署温海森林事務所 森林官 大石 恭史

言えばお米ですが、ここ温海地区では「温海かぶ」と呼ばれる赤紫色で平べったい形が特徴のかぶが有名です。昨年、帰省の土産用にと職場の同僚からいただいた「温海かぶ」の



摩耶山山頂からの眺望

私の勤務する温海森林事務所は、山形県沿岸部の最南端に位置し、新潟県上市と接する鶴岡市温海地区の国有林を管轄しています。東に摩耶山、西に温海温泉や漁港があり山と海に囲まれた自然豊かな山形県の観光スポットになっている地域です。通勤時や現場への移動中などには、日本海や山々・田畑の四季折々の風景を楽しみながら運転をしています。また、海産物やお蕎麦・ラーメンなど「食の都庄内」の一端を担うおいしい食べ物にも出会えます。さて、庄内地方の代表的な作物と



焼き畑の火入れ

漬物は大変美味しく、家族や友人にも大好評でした。その栽培方法は400年もの伝統がある焼畑農法で、スギの伐採跡地に火入れした後に種まきをするというものです。連作障害を起こすかぶ栽培の土地探しを補いつつ、伐採跡地の地拵えを省力化できるといふ農業と林業が結びついた、まさに一石二鳥の農法です。そのような先人の知恵に感心していた矢先、前年度スギを伐採した跡地（保安林外）に地元から焼畑敷の貸付要望がありました。伐採跡地とはいえ国有林に火入れすることになるため、話を受けた当初は不安でしたが、貸付のための条件を一つ一つクリアし、7月に契約を交わすこととなり、お盆前の火入れ当日はうだるような暑さで、まさに炎天

今回のような事例は地元の要望があつて実現したのですが、森林官として管轄地域の特色や伝統を意識して業務することの大切さをあらためて学びました。今後も国有林だけでなく、地域の産業や生活・風習などにも気を配りながら業務にあたりたいと思っています。

下での実施となり、監督員としての立会いとはいえ、流れ出た汗の量は山登り以上のものとなりました。火入れ後すぐに播かれた種は順調に生長し、秋の収穫も豊作で、土地を提供した側としても一安心といったところでした。一方、伐採跡地も火入れのため整理され、将来の地拵え作業も少なくなり、お互いにとって実りのある契約になったように思います。



温海かぶ



# 我が署の名所

## 平滝自然観察教育林(秋田県大館市)

米代東部森林管理署

平滝自然観察教育林は、秋田県北西部に位置する大館市の平滝地域にあります。林相は、前方に天然秋田杉群、後方に広葉樹林の二つの地帯に区分されています。

ほぼ一斉林に近い天然秋田杉林分地帯は、一本あたりの材積も大きく、入口付近にある広場には樹齢100〜200年程度の天然秋田杉が林立していることもあり、荘厳かつ神秘的で素晴らしい空間が広がっています。また、広葉樹林地帯は林齢約100〜150年で、カツラ、イタヤカエデ、ホオノキ等が混生し多種



平滝自然観察教育林入口の天然スギなど



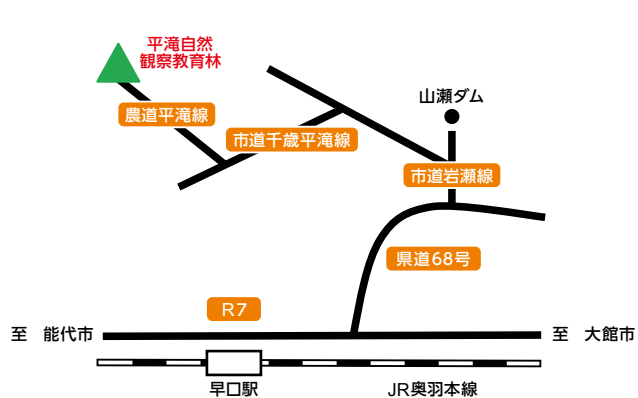
東屋と林内の様子



林内で一番太い天然スギ

多様な自然美を満喫でき、また、森林散策路が整備されているので、森林浴や野鳥観察、紅葉狩りなどを楽しむことができます。地形も概ね緩傾斜地で、林内には小沢の流れもあつて自然観察に優れた特徴を持っています。

このように、天然秋田杉に囲まれた広場や歩道があるので、小中学生の森林環境教育や市民の憩いの場として更に活用されるよう、大館市では今年度、自然観察教育林内の施設改修を行っており、また、当署では来訪した外国人への多言語化説明となるユニボイスを案内看板に設置しました。こうした案内板、トイレ、東屋、ベンチや簡易な遊具もありますので、ご家族や友人などで、食事や森林浴に訪れてみてはいかがでしょうか。



### ◎交通アクセス

JR奥羽本線早口駅から約35分(約20km)  
秋田自動車道大館南ICから約50分(約22km)  
秋田自動車道二ツ井白神ICから約80分(約44km)

林野庁 東北森林管理局 米代東部森林管理署  
TEL 017-00331 秋田県大館市上代野字中岱3-23  
TEL 0186-50-6130  
FAX 0186-50-6133

